令和７年９月２日

浦添市議会議長　殿

議会運営委員会
委員長　仲 間　烈

議会運営委員会視察報告書

令和７年７月23日から令和７年７月25日まで、議会運営視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

1 視察期間　　令和７年７月23日（水）～令和７年７月25日（金）

2 視察場所　　愛知県豊明市議会　愛知県蒲郡市議会

3 視察項目　　「通年議会」について
「議会運営」について

4 視察参加者　　仲間　烈　　平安山良斗　稲嶺伸作　　濱崎早人
上原聖也　　下門愛花　　當間左知子　仲村直子
又吉健太郎（※議長）

5 調査内容　　別紙のとおり

別紙１	委員会名：議会運営委員会
視察日	令和７年７月23日（水）
視察先	愛知県豊明市 人口　67,685 人　（令和７年８月１日現在） 市面積　23.22 ㎢ 議員定数　20 人

視察市の概要

豊明市は、愛知県の中央よりやや西部に位置しており名古屋市南部に隣接している。昭和47年8月1日に愛知県で30番目の市として誕生し、名古屋市近郊といえども、緑豊かな自然環境と古い歴史に育まれながら、快適な居住環境を備えた名古屋都市圏の住宅都市として発展を続けている。

市内には、わずか十分の一とも云われる軍勢の織田信長が今川義元を奇襲で打ち破った戦いで有名な「桶狭間古戦場伝説地」の他に、海抜72メートル地点にあり市内を一望できる名勝地「二村山」や今も残る鎌倉街道などの史跡がある。競馬ファンにはおなじみの「JRA中京競馬場」もあり、訪れる人を楽しませてくれる歴史や施設を有している。

また、春には戦国武将の霊を慰める「桶狭間古戦場まつり」、秋には高さ約12メートルのやぐらの上で獅子を舞う県指定無形民俗文化財「大脇の梯子獅子」、市指定無形民俗文化財「上高根の棒の手」と火縄銃の発砲音が轟く「警固まつり」が開催され、豊明の風物詩として親しまれている。

調査項目

「通年議会」について

調査理由

通年議会とは、年間を通して議会を開催し会期を実質的に約１年とする制度であり、休会期間を設けずに議会が長期間にわたり活動能力を有すること、また大規模災害等による緊急時においては迅速に対応できる体制が整うことなど、緊急時や必要に応じて柔軟に会議を開催することが可能である。

本市の議会運営の充実強化を目的として、通年議会制導入時における議会の運営状況について調査・研究を行う。

調査事項

「通年議会」について
１．通年議会制の導入までの経緯について
２．通年議会制の導入に関する準備手続等について
３．通年議会制の実施に関する運用状況について
４．通年議会制のメリット・デメリットについて

考察

・　通年議会の導入については平成20年から23年にかけて島根県出雲市、愛知県北名古屋市兵庫県西脇市の議会基本条例や議会改革の取り組みなどを参考に出来上がったとの事。導入後のメリットとしては災害が発生時や補正予算などの審議の緊急対応でき、専決処分が少なくなり、緊急な陳情なども早期に審議でき対応が出来るが、デメリットとして地域での議員活動の時間が少なく、緊急議会開催の日程調整などが困難、議員の個人的な予定が組みづらいと説明。本市の議会事務局の職務が多忙にならないかその点を検討しながら進めていければと思います。

・　通年議会について学ぶ。
経緯、メリットとデメリットなど説明を受けて質疑応答へ。
浦添市にとって現状を変える必要性、基本条例の制定、議会を成熟させていくための意識を抱くことが大事。
議場も見学させて頂く。

・　豊明市議会では平成24年から通年議会（1年を通じていつでも議会を再開できる体制）を導入していました。通年議会導入の経緯、運用上のメリット・デメリットについて質問しました。
通年議会のメリットとしては、市長や議会が必要と判断した際、休会中でも議長の権限で速やかに議会を再開できるという点です。災害発生時や緊急案件に対して迅速な対応が可能になるということは市民にとっても安心できる議会の体制だと感じました。一方で、通年議会導入後、休会中に議会を再開する事例は殆どなかったとのことで現在の本市議会の運用と、大きな差は感じられませんでした。この視察をきっかけに、他市の先進事例も参照しつつ、より市民に信頼される議会運営の実現を目指していきたいと考えます。

・　現在、豊明市では通年議会制を導入しており、そのメリットとしては、議長の権限で議会を開催する事が可能であるため、専決処分ではなくなるべく議会ではかることにより、行政へのチェック機能が図られる。
しかしデメリットとしては、緊急会議が開催されると議員の日程を変更せざるを得ない状況があるため、あらかじめ予定していた場合はリスケする必要がある。
また、現在豊明市では議員から議長への議会開催はされておらず、例えば沖縄県の問題として米軍・米軍属の事件事故などの抗議文を議員提出したい場合は定例会の開催を待たざるを得ない状況となる。なので今後も通年議会の調査研究に努めていきたい。

・　豊明市で通年議会について視察を行った。
豊明市としては通年議会制度にしてはいるが臨時議会が多く開かれたりすることはないようで、平時では定例会と違いは無いとのことだった。有事の時にはすぐに動けるので通年議会の良いところと判断している。
専決処分については3月末に出てくる国の方針などには間に合わないとのことで専決処分がなくなったわけではないとのことだった。
浦添市としては議会が積極的に開催できる通年議会についてさらに勉強が必要で、有事の時にすぐに動ける議会の開催も必要だと思う。

考察

・　豊明市議会では、平成20年から平成22年に議会基本条例を制定するための行政視察などを行い情報収集し、平成23年4月の改選を機に「通年議会制」の導入が必要と検討し、それを含めて、平成23年6月に議会基本条例の制定が行われたとのことでした。
　説明後の質疑において、私は「通年議会制」の導入が必要とされた理由を伺いました。平成23年4月の市議市長選挙があり、その後市長からの公約に対して市議会での協議を行う必要性が高まったためとのことでした。
　浦添市においても、今年2月に改選があり、市長の公約から市議会への提案された件もあったので、同じような状況であったのかなと感じました。
　「通年議会」は市長の専決処分を無くし、行政監視の機能強化がメリットであり、緊急議会の日程調整が困難な場合が多いというデメリットがあるとのことでした。市民に公平公正な行政サービスを高める中、市長の専決処分の内容と理由が適正なものなのか、行政の取り組みとして責任ある対応を追求し確認していくことが、議員としての役割であることの認識を深めることができました。

・　通年議会を実施するに当たり、平成20年の導入から24年の条例制定まで4年の年月をかけており、かなり長期的に取り組んだ経緯が見られた。
　通年議会とは、１年を通じて開会する議会であり、休会中であっても議長の権限で会議を再開することができ、災害発生時や緊急な課題に迅速に対応することが可能になる議会である。
　そのメリットとして、①休会中でも議長の権限で会議を再開することができる、②常任委員会等の審査日程の設定も柔軟に対応することが可能となり、議案審査や所管事務調査の日数が増えることになるので、議会の政策立案行政監視の強化につながることがあげられていた。
　浦添市は通年議会ではないため、豊明市の説明を受け大いに参考になったところであるが、休会中の会議の開催については浦添市議会会議規則の第10条で定めており、現状でも何ら問題はないと考える。議会の政策立案、行政監視の強化は重要視しなければならないことであり、通年議会を実施することでそこにつながるのであれば、今後検証していきたい。
【参考】
●浦添市議会会議規則
(休会)
第10条　市の休日は、休会とする。
2　議事の都合その他必要があるときは、議会は、議決で休会とすることができる。
3　議長が特に必要があると認めるときは、休会の日でも会議を開くことができる。
4　地方自治法(昭和22年法律第67号。以下「法」という。)第114条第1項の規定による請求があった場合のほか、議会の議決があったときは、議長は、休会の日でも会議を開かなければならない。
●地方自治法
第114条　普通地方公共団体の議会の議員の定数の半数以上の者から請求があるときは、議長は、その日の会議を開かなければならない。この場合において議長がなお会議を開かないときは、第106条第1項又は第2項の例による。

・　通年議会については、これまでコロナ禍での臨時交付金などの際にあって良かったとのこと。
　実際に大きな災害などがあったりスムーズな議会運営を行う上では必要な取り組みだと感じたが、現状の浦添市議会と再度検証を行い、職員や議員の負担がどのように変わるのかを調査していきたい。

別紙２	委員会名：議会運営委員会
視察日	令和７年７月24日（木）
視察先	愛知県蒲郡市 人口　77,019 人　（令和７年８月１日現在） 市面積　56.96 ㎢ 議員定数　20 人

視察市の概要

蒲郡市は愛知県にあり、本州のほぼ中心に位置しています。2つの大きな半島に囲われた海辺の観光地で、三河湾国定公園に指定されています。約47kmの海岸線沿いに4つの温泉地を持ち、市内には日本の文化を感じさせる神社や仏閣の多い、美しい土地です。『東海道にてすぐれたる 海のながめは蒲郡』と鉄道唱歌に歌われるほど海の眺めは美しく、海から山にかけ変化に富んだ景勝は、万葉の歌人や近代の作家にも愛され、数多くの文人が好んで訪れました。

この地方ではすでに延暦18年（799年）頃から織物が行われていたとされており、後に三河織物へと成長し伝統産業となりました。織物・繊維ロープ工業が発展し昭和40年代には工業製造出荷額のうち、80％近くを繊維関連が占めるほどになりましたが、ニーズの変化や工業の多様化の結果、相対的に繊維関連の比率も低下してきていますが、蒲郡市の工業中の分野のトップであり、繊維ロープ製造業界においては日本一の生産量を誇っています。

2つの大きな半島に囲まれた、温暖な気候の海辺の街で、冬中でも雪が降ることがあっても積もることはほとんどありません。雨が降ることもまれで、雨の日は年に10%程です。 温暖な気候を活かしたフルーツ栽培がさかんで、特に「みかん」の生産では日本国内で有名で、ハウスみかんについては日本有数の出荷量があります。

現在の市制は1954年にはじまり、2014年に市制60周年を迎えました。

調査項目

「議会運営」について

調査理由

議会運営を円滑に行うにあたって、会議日程の調整、本会議で提出される議案や請願・陳情の審査、会議規則や委員会条例に関する事項の調査、常任委員会及び特別委員会の仕組みなどについて調査・研究を行うとともに、その中でどのように議会の活性化に取り組んでいるかについて視察を行った。

調査事項

「議会運営」について
１．議会運営に関することについて
２．議会における議会運営委員会の運営について
３．常任委員会及び特別委員会の運営について
４．議会活動の活性化に関する取り組みについて

考察

・　本議会、常任委員会、特別委員会のライブ配信を平成29年9月以降YouTubeにて配信を行っているとのこと。ライブ配信が自宅にて多くの市民が見ており市民の議会への参加が広がっているのを実感しているの説明がありましたが視聴回数が少ないように思う。市民へライブ配信のアピールを工夫するのが課題。本市では本会議のみのライブ配信ですが常任委員会、特別委員会のライブ配信することによって開かれた議会であり、議員がどのような発言をしているかを、見ることが出来るが発言での言葉使いなどで議員の資質を問われることもあるので常任委員会、特別委員会のライブ配信は慎重な協議が必要です。

・　Youtube配信の導入により、市民が議会活動を身近に感じやすく、市民の議会参加を促すことができるのはメリットだと感じました。また現在、本市議会では常任委員会・特別委員会の映像配信は行っておりませんが、より開かれた議会を目指して蒲郡市のように映像配信を行うことで、議員の資質向上にも繋がると感じました。その一方で、配信用カメラ設置費用や、発言訂正時の対応など、運用面での課題も浮き彫りになっており、導入を検討する際には、討議する必要性を感じました。
今回の視察を通して先進事例に触れることで、議会活性化への新たなヒントを得ることができました。今後、本市議会の発展にも活用していきたいと考えます。

・　蒲郡市議会ではYouTubeでの議会配信をしている。しかも、定例会だけではなく各種委員会や予算決算委員会までライブ配信を行なっていることにとても驚きました。
これは市民へ開かれた議会を目指す現代社会に置いて、有権者などへ発信するのにはとても有効的で良い事例だと感じました。
また、費用も初期費用の機材さえ揃えられれば編集や配信に関しては全て無料で行われているため、そこまで予算をかけなくても実現することが可能であると考える。
しかしながら、休憩中の対応なども含めてまだまだ協議が必要だと感じるが、近い将来浦添市議会でも導入を検討しても良い事例だと思いますので、今後も蒲郡市との連携を計りながら実験に向けて調査していきたい。

・　蒲郡市議会の議会運営について視察を行った。
議長・副議長選挙は毎年開催しており、所信表明を行い、選挙を行っているようで素晴らしいと感じた。浦添市はすぐに投票に移っているので市民向けに所信表明を行う事でより市民に寄り添った議会運営が出来ると感じ、投票する議員に対しても議長候補としてどのような議会運営を行っていくか明確に示せる機会になると思う。
配信についてはＹＯＵＴＵＢＥを活用しており、市民が身近に感じるコンテンツだと思う。
浦添市も動画配信を行っているが、現在のＨＰやＯＣＮ配信はどのくらいの市民の方が見ているのか等も含めて今後検討する必要があると考える。

考察

・ 浦添市と友好都市を結ぶ、愛知県蒲郡市へ。
鈴木寿明市長、贄年宏副市長始め職員の皆様の歓迎を受けて市庁舎へ。
浦添市55周年記念式典にもお越し頂き、その御礼も兼ねて友誼を深めた。今後とも末永い関係を構築して参りたい。
浦添市と蒲郡市のコラボ商品開発(蒲郡みかんとブルーシールアイスなど)を提案させて頂いた。
蒲郡市議会の議会運営について説明を受けた。常任委員会、特別委員会も動画配信を行っており市民に開かれた議会となっている。
議場も見学。築50年の風格が感じられます。作りが浦添市議会の議場にも似ており解放感が感じられた。
蒲郡市の特産品、観光地めぐり
花火...来る日曜日が蒲郡まつり。見れず残念。浦添市のてだこまつりの花火は４号サイズなので最大サイズの大きさに驚き。
水族館...見せる仕掛けが随所に。民間活力を採用したPFIで管理運営。親子連れが多く来館し市民に愛されている。
ボートレース蒲郡...国内24場のひとつ。長い歴史と市民の理解醸成を基にした地域振興・活性化に貢献。ギャンブルだからと却下するのではなく、まちづくりの実績を現地で確認できたことは有意義だった。財源と雇用確保のメリット、依存症を生まない対策など参考にし検討する価値がある。
他にも、蒲郡みかん、いちご、三河もめんなど

・ 蒲郡市の視察では、市長や市議会副議長からの表敬があり、歴史や文化のご説明を受け、自然豊かで地場産業を誇りとし観光にも力を入れているまちであることを知ることができました。
施設視察での市立竹島水族館には、市立で水族館があることには驚きましたが、現在は建て替え予定と、コンセッション方式で実施されているとのことでした。様々な海の生物の展示や触れる体験、深海魚の展示を工夫するなど、親子が楽しめて、様々な人が学びやすい内容となっている印象を受けました。
「議会運営」の概要説明があり、市の大きな財源となっているのがモーターボート競争事業であるとのことでした。また、議会の正副議長が毎年選挙を行っているとのことでした。また、YouTubeを用いた会議の配信について、本会議・常任委員会・特別委員会を、ライブ配信・録画配信しているとのことでした。録画配信は平成18年から、ライブ配信は平成23年から行っているとのこと。私から市民の視聴効果について質疑すると、効果はあるとのことでした。しかしそれ以上に、執行部が委員会の内容をチェックしていることと、議員が勉強会ではなく議論をするために、資質向上が必要と自覚に繋がる、とのご説明もありました。私も自分の議論の仕方について改善の必要性を感じました。
さらに施設視察が蒲郡競艇場にて行われました。ボートレース場に多くの方の来場を目的として、昨年にオープンした屋内外遊び場（キッズパーク）と今年オープした「健康づくり」「交流の機会」「地域連携」の３つをポイントとする管理棟・多目的広場（コミュニティーパーク）を視察しました。広い駐車場もあり、キッズパークには乳幼児の親子連れが大勢来場され楽しまれていました。コミュニティーパークはスケートボード場を含む３つの多目的エリア、他３つのエリアがあり、小中学生がスポーツを楽しんでいました。そして、５階建てのスタンド内を視察させていただき、２０１４年にリニューアルオープンしたとは思えないほどきれいな建物で、ボートレースの迫力を鑑賞することができました。

・ 議長、副議長の任期がそれぞれ１年である。経験上、未知の世界なのでしっくりこない点があるのが正直なところであるが、機能的な議会運営に結び付くのであれば、浦添市も検討しても良いのかもしれない。毎年、臨時議会において立候補者による所信表明の場を設けていることは、議会運営の課題について共通認識につながるのではないかと思う。
また、蒲郡市議会においては、本会議、常任委員会、特別委員会のインターネット配信をしている。常任委員会、特別委員会まで踏み込んだ配信の在り方を浦添市も参考にすべきと思った。

・ 議長選の際には立候補をし抱負を全員協議会で述べるなど先進的に感じた。浦添市議会においても改選時などで取り入れていくのもいいのではと感じた。
議案に対する反対討論を事前に報告する旨の申し合わせについても、活発な議論になるためには必要な取り組みだと感じた。
水族館を民間の力を借りて、V字回復をした取り組みは今後の浦添市の公共事業においても手助けになると考える。サービスの低下など、マイナスの部分も含め調査したい。
ボートレース場があることによるプラスの面を感じた。全天候型公園が同じ建物内にあったり、周辺にはスポーツを楽しめる施設も併設されていた。
ギャンブル依存性や様々な影響もあるが、こちらについても様々な事を考慮していきたい。

蒲郡市